

## ヘブル人への手紙 第4章 15節

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」

このことから、私たちが受ける苦しみ、苦難は私たちだけが直面していることではないということです。私たちがかかえる、逃れようもない弱さが、孤立した無力さではないということです。私たちの苦しみの前に、既に苦しまれたお方がいます。私たちが直面する苦難の前に、すでに苦難を身に受けたお方がいます。私たちが弱いとき以前に、弱さを知るお方がいます。

私たちだけが、私だけがと嘆くことはないのです。既に、先を生きられたお方がいることを知り、そのお方に目を転じればよいのです。そのお方はあらゆる辛苦を、私たちのために先んじて体験して下さったばかりか、同情までして下さり、共に痛んでくださる。

たとえ、私たちが嘆くようなことがあったとしても、気持ちを分かってくさるのです。それも、罪無きお方、罪を犯すことが無いお方が私たちの側に立ってください、同情してくださるのです。ですから、こころに一点の曇り無く、私たちの思いを大祭司に注げます。